

## 第7回 那須烏山市庁舎整備検討委員会 会議録（公開用）

開催日時	令和5年12月21日（木）午後1時30分～3時45分
開催場所	南那須図書館 多目的ホール
出席委員	三橋伸夫、中山糸男、長山真奈実、福田博子、 萩原宣子、山村浩之、角田梨紗、高田悦男、 佐竹信哉、稲葉茂、豊島香折、小川正順
欠席委員	大塚孝徳、佐藤潤一、平野達朗
事務局	【庁舎整備推進室】関主幹兼室長、平山課長補佐、田嶋主査 【都市建設課】鈴木課長補佐 大日本ダイヤコンサルタント(株) 4名
傍聴者	4名

### 1 開会

事務局が開会を宣言した。

委員15名中11名が出席、1名は遅れて出席の予定であり、現在の出席委員数が会議の定数である過半数に達していることを報告した。

### 2 委員長あいさつ

（委員長）

本日の議事としては、これまで委員会で検討してきた内容を取りまとめた庁舎整備基本構想（第1次素案）についてご意見をいただくことと、烏山庁舎跡地及び南那須庁舎跡地の活用を中心に、市民ホールといった新たな施設の配置や既存の公共施設の再編といったことも含めて、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴したい。

次回1月25日の委員会においてそれら意見を踏まえ、事務局で作成したグランドデザインのたたき台を示し、議論いただくことを想定している。本日はできるだけいろいろなご意見をいただき、事務局案に反映させていきたい。

### 3 本日の会議の取扱いの確認

事務局) 議事に先立ち、本日の会議の取扱いを確認したい。本日の会議は、第6回委員会で確認したとおり公開となる。別室で待機している傍聴者に入室を許可したうえ、報道機関のみ写真撮影及び動画撮影を許可してよろしいか、お諮りしたい。

委員長) ただ今、事務局より提案があったように、本日の会議は公開とし、傍聴者の入室を許可したうえ、報道機関のみ写真撮影及び動画撮影を許可することとしてよろしいか。

（異議なし）

異議がないため、本日の会議は公開とし、傍聴者の入室を許可したうえ、報道機関のみ写真撮影及び動画撮影を許可することとする。

#### 4 議事

##### (1) (新)那須烏山市庁舎整備基本構想(第1次素案)について

###### (若手有志の会の活動について)

事務局) 説明に入る前に、1点ご案内させていただく。12月19日の下野新聞において、本委員会の若手委員6名の方々が「なすからのまちづくりを考える若手有志の会」を独自に結成し、市の将来像を問うアンケートを行っているという記事が掲載された。本日、そのアンケートのチラシを配布させていただいた。若手有志の会の活動について、ご紹介いただきたい。

委員) 先ほどご案内いただいた若手有志の会を結成し、メンバーの1人として活動している。若手有志の会の結成について、事前に検討委員会で報告できればよかったが、時期の問題等もあり、事後報告になったこととお詫びする。

若手有志の会を結成した経緯や活動内容は、新聞記事にまとめられているとおりである。私自身、検討委員会の議論を通して、市民にとって重要な議論であるのに、子育て世代や若い学生、働き盛りの20代の世代に、なかなか情報が伝わっておらず、その世代の声を吸い上げられていないと感じていた。若手有志の会は、このような問題意識を共有した6名の委員で組織したボランティア団体である。

活動内容としては、1つは、11月17日に、市内の企業である㈱アヤラ産業において、20代から40代の若手従業員との意見交換会を行った。形式ばったものではなく、ざっくばらんに若者の意見を聞くことができたと感じている。もう1つは、お手元にあるチラシを作成し、20代から40代を中心に声かけをして配布したり、WEB上でデータを掲載するなど、市民への情報共有や意識の啓発を図った。チラシの内容は、極力中立を保って作成した。チラシの裏面にあるとおり、アンケートの募集をしている。12月24日を締め切りとしており、暫定ではあるが、現時点で200件近い回答が得られている。そのうち20代から40代の回答が約74%を占めており、私たちが狙いとしたターゲットの世代の回答が多く得られたと考えている。アンケートの集計結果については、本委員会の事務局である総合政策課にも提供する予定だが、私たち6人のメンバーとしても、回答をよく読んで、本委員会での議論や答申の作成に生かしていきたいと考えている。

###### (第1次素案について)

第6回検討委員会の経過を説明した上で、広報なすからすやま12月号に特集として掲載された庁舎整備ニュースレターVol.7の内容を紹介しながら、庁舎整備基本構想(第1次素案)の内容について説明した。

事務局) 第6回委員会までの検討結果について、箇条書きベースでまとめたものである。今後、更なる候補地の絞り込みの状況等を踏まえながら、ブラッシュア

ップを図っていきたい。ご意見については、この場でいただくほか、「意見提出シート」に記載のうえ、後日提出いただいても結構である。

委員長) 　ただいま事務局から新たに策定する那須烏山市庁舎整備基本構想（第1次素案）について説明があった。本日は、この内容について更に議論を深めるといよりは、全体として整合が取れているかなど全体の構成にウェイトを置いて議論いただきたい。詳細なことについては、事務局から説明があったように、「意見提出シート」に記入のうえ、後日提出いただくこととなる。

委員) 　全体としてはよくまとまっている。1点気になった点を挙げると、「策定の経緯」の中で、旧基本構想（素案）の策定から今回の見直し再検討に至るまでの経過についての文章の表現はもう少し精査が必要だと考える。

委員) 　市民から「アンケートをなんで取らないんだ」という意見が出ている。個人的には、今アンケートを取っても混乱してしまうと思う。アンケートに関し、検討委員会としての考え方はどうすべきか。

委員長) 　一口にアンケートと言っても、どういうスタンスで行うかによって、結果の受け止め方等も変わってくる。市民が庁舎をめぐる問題についてある程度理解を深め、問題のありようを整理できて初めてアンケートの結果が意味を持つ。「どこかで庁舎の議論をしているね」くらいの認識でアンケートに答えても、それは大きな意思決定をするような資料にはなり得ない。そういった意味で、庁舎整備ニュースレター等を通じて、委員会の内容やそれ以外の庁舎をめぐる客観的な事実等をお知らせして、市民に理解を深めてもらうことが先決だというスタンスで進めてきた。アンケートを取るべきという気持ちは理解できるが、やはり市民の理解と、それを通じた合意形成がベースにないと先に進めない。

委員) 　委員長の考えに同感である。これまで市の広報誌で何度も掲載してきて、市民の理解も進んできている。現時点でアンケートは必要ないと考える。

委員) 　第1次素案については、コンパクトにまとまっている。スケジュールとして、委員会として答申する際には、完成した基本構想（素案）を出すこととなるのか。

委員長) 　市長から諮問された事項を議論し、それをとりまとめて答申することになる。当初は、令和5年度内に答申する予定だったが、スケジュールについては事務局から補足説明願いたい。

事務局) 　当初の予定では、令和5年度内に答申をいただいて、基本構想の策定に向かっていくスケジュールとなっていた。第6回委員会では候補地を3箇所に絞り込んだが、今後、経済性・実現性の精査が必要である。委員からは、庁舎だけでなく、まちづくりのランドデザインを描いたうえで合意形成を図ることが望ましく、年度内にこだわらずに丁寧に進めるべきとの意見もいただいたところ。事務局としては、令和6年度に持ち越すこともあると考えてい

る。

委員) 若手有志の会のチラシにはグランドデザインを一緒に考えていきましょうという文言が含まれており、アンケートの回答には、グランドデザインに関する思いも書かれている。年末年始もあり、アンケート結果をとりまとめるのが年明けになってしまう。グランドデザインに関し、アンケートの内容も踏まえた議論が必要と考える。年度内という期限を設けず丁寧に進めていくことに賛成する。

委員長) アンケートの前段階として、市と市民間の意思疎通を図っていくため、タウンミーティングや庁舎整備ニュースレターを通じてコミュニケーションを図っている。その中で女性団体連絡協議会のアンケートや若手有志の会のアンケートがコミュニケーションの素材の1つとしてあがってくるのは望ましいことであり、議論の素材になり得るものである。

委員) 20年前から「市民の声をキャッチする」をモットーに活動している。市自らのアンケートは必要ないと思っている。市民の声を吸い上げるのは、市議会議員の役目である。市民の声を集約して生かしていきたいと考えている。

「策定の経緯」では、東日本大震災による被害や影響について、もう少し踏み込んで記載した方が良いと考える。

委員) 今までの議論がコンパクトにまとめられており、市民が読んでもわかりやすい。資料については、県内他市町の災害対応や駐車場の事例などが補足してあると、更に市民の理解が深まると考える。

委員) これまで議論してきた内容がわかりやすくまとめられている。素案がまとまった後、どうやって実現していくか、市民の理解・合意形成をどのようにしていくのかも考えていく必要がある。

委員長) 他市町の基本構想との比較で申し上げますと、概算事業費まで踏み込むかどうか、庁舎規模の算定に当たり人口減少による職員数の減少を加味するかどうかといった点がある。

概算事業費については、なかなか見通せない部分が多い。大阪万博の例にもあるように、工事費などがどんどん上がっている。概算とはいっても、基本構想に明記することで、後々足かせになる可能性もある。概算事業費は、基本構想に必ず明記しなければならないものではないため、明記するかどうかは慎重に考える必要がある。参考として、私が庁舎に関わりだした15年くらい前の建設費は、1㎡当たり40万～43万程度だったが、今は1㎡あたり60万円近くまで上がっており、5割近く上がっている。世界情勢等の動きによっては更なる物価の上昇、人手不足による人件費の高騰等も考えられる。基本構想においては、あまり踏み込まない方がよいと考える。

庁舎規模の算定について、日光市の場合は、今後市の人口が減少する中で

現職員数をベースに規模を決めていいのかという議論があった。日光市の場合、既存の庁舎を一部残して使うこととし、その面積を差し引いて新庁舎の規模を考える形でその議論に答えた。那須烏山市の場合、保健福祉センターといった本庁方式とはいえ分庁的な施設も残すというゆとりを持っている。一方で、新庁舎が開庁したとき、実職員数と比べて小さい形でスタートしてしまうと、最初から窮屈な庁舎で、サービスの質にも影響する。これは新庁舎にとって非常に不幸なスタートとなる。日光市の事例は特殊なケースで、やはり考え方としては、現職員をベースに規模の算定をするというのは、動かしがたいことだと考える。

委員) コンパクトにまとまって読みやすくなっている。予算と面積は影響し合うもの。予算ありきなのか、面積ありきなのかでだいぶ変わってくる。どちらかを明記するなら、もう一方は明記しがたいということも出てくる。

委員長) 他に意見がないようなので、改めてアナウンスさせていただく。何かお気づきの点などご意見があれば「意見提出シート」に記入のうえ、提出いただきたい。

## (2) まちづくりのグランドデザインの検討に向けた現状と課題の整理について

事務局が資料「まちづくりのグランドデザインの検討に向けた現状と課題の整理について」に基づき説明した。

事務局) 年明け以降の委員会では、公共施設の再編シミュレーションを行いながら、まちづくりのグランドデザインを描くこととしている。本日は、その前段として、本市の主要な公共施設の現状と課題を踏まえた公共施設の在り方についてご意見をいただきたい。

ご意見をいただくに当たっては、本市の公共施設の現状と課題を踏まえるとともに、総合計画との整合、コンパクトシティ、JR烏山線の活用、公共施設等総合管理計画における今後の方針を踏まえた複合化・多機能化の推進といった視点が重要となる。烏山庁舎及び南那須庁舎の跡地利用を含め、今後の公共施設の在り方について忌憚のないご意見をいただきたい。

事務局としては、いただいたご意見を参考にしながら、グランドデザインのたたき台を整理し、次回委員会でお示ししたいと考えている。しかしながら、意見の状況等によっては、グランドデザインのたたき台として整理するために一定の時間を要することが想定される。また、概算事業費の算出に向けて、道路整備費用の算出といった調整も並行して進めている。こういった作業の進捗によっては、1月25日の委員会について延期が必要となる可能性も生じる。その際には、委員の皆様にご相談させていただきたい。

委員) 烏山地区の公共施設を見ると、ほとんどが解体する建物となっている。社会教育委員からは、発表の場となる施設や文化的な施設の整備が求められてい

る。社会教育の現場では、社会教育施設が充実していない。成人式についても、ゴルフ場を借りて実施しなければならない。成人式の式典ができるような文化的施設が必要である。かつてオーケストラが来て、烏山体育館で演奏したが、ガラスで音が割れてしまった。本来子どもたちの耳に入るべき音が入らなくなってしまった。文化的素養を培う環境がない状況である。発表の場であり、オーケストラの演奏を聴くことができるような文化的施設の整備は必要だと考える。新庁舎に複合化することも一案だと考えていたが、土地の状況によっては難しいかもしれない。いずれにしても、文化的施設の整備は喫緊の課題であるため、今後取り組んでいただきたい。

委員) 新庁舎の候補地が3箇所に絞り込まれ、3箇所のいずれかに新庁舎が建ち、ほかの場所にその他の公共施設を建てることになると思う。金井一丁目地内とJR烏山駅周辺はほぼ更地だが、中央公園には既存の公共施設が存在しており、何かを建設する場合には撤去する必要がある。かなりの撤去費用がかかると思うが、なるべく負担を少なくするために何か考えていることはあるか。

事務局) 令和元年に答申のあった基本構想(素案)では、中央公園が候補地として望ましい場所とされていた。その際、中央公園の既存公共施設をどうするかについての合意形成が図られていなかった。市公共施設等総合管理計画では、中央公園の既存公共施設は未耐震、老朽化等により解体撤去のうえ集約化・複合化を図ることとしている。したがって、中央公園については、既存公共施設の撤去費用が必要となる。また、多くの委員から、中央公園の道路整備についても、経済性の観点から、概算事業費を示して欲しいとの要望を受けている。既存公共施設の撤去費用と道路整備費用を合わせたトータルの概算事業費がいくらになるのかについて、検討を進めている。道路整備に絡めた既存公共施設の撤去ができないかなど、なるべく費用がかからない方法についても、都市建設課と調整しながら進めているので、次回又は次々回の委員会でお示しできればと考えている。

委員) 先日、水戸市民会館と大子町の新庁舎の視察ツアーに参加してきた。水戸市民会館は、ホールをメインとした複合施設で、自由にリモートワークや学習ができるスペースが開放されている。まちなかに立地しており、人が通り抜けられる動線になっている。大子町の庁舎は、当初は現地建替えが計画されており、川と川の合流地点であったことから、2メートルのかさ上げをして建設する計画だった。しかし、水害時に浸水したことや、周辺の道路が水に浸かって使えなくなるといったことから、山の上にある高校跡地に移転した。庁舎棟、議会棟、体育館という構成で、議会棟には災害時に救援物資等を置けるスペースが確保されていて、体育館は避難所としての機能を果たせるようになっている。有事のことを考えると、庁舎の複合化を検討するに当たっては、災害対応にも利活用できる要素が含まれていると良い。

駐車場については、ホール等にはある程度駐車場が必要だと思うが、電車でも来られるような立地であれば、市内だけでなく市外の人も利活用しやすくなる。立地を考えるうえで、駅が近いという要素はメリットが大きいと考える。

委員) 基本構想第1次素案の8頁に、総合政策審議会からの答申として「2町合併時の合意内容を尊重したまちづくりが進められてきた経緯も踏まえる必要がある」と記載されており、グランドデザインを検討するに当たっては大事なことだと考える。都市計画マスタープランはもうできているのか。

事務局) 都市計画マスタープランについては、古い計画となっており、現在見直しを進めている。

委員) グランドデザインを検討しないと庁舎の位置付けが決まってこないというのは理解できるが、グランドデザインは政策上どのような位置付けとなるのか、委員会の枠の中で議論が成立するのかが懸念される。

委員長) 庁舎整備基本構想とグランドデザインの関係性について、事務局から改めて説明願いたい。

事務局) 本市の公共施設全体の老朽化が進んでおり、特に烏山地区の公共施設の老朽化が著しく、改修ではもう耐えられない状況。一方、南那須地区の公共施設は、比較的新しいが、大規模改修の時期を迎えている状況にある。市民の共通認識の醸成を図るために、10年後、20年後を見据え、公共施設の再編再配置の絵姿となるグランドデザインを市民に示す必要がある。庁舎だけでなく、その他公共施設の再編再配置の一体的な検討の中で、核となる庁舎の位置を決める必要がある。例えばホール機能の面積や場所について、委員会の中で具体的に決めるのではなく、それは個々の施設の構想や設計において決めることになるが、庁舎を核とした概ねの位置付けをグランドデザインとして示すことで、市民の理解も深まると考えている。

委員長) 基本構想第1次素案8頁に記載の「2町合併時の合意内容」について、要約するとどういった内容なのか。

事務局) 基本構想第1次素案6頁に記載しているが、合併時、両市街地の役割分担について議論がなされ、烏山市街地は庁舎を含めた行政機能を集約するエリア、南那須市街地は宇都宮市への近接性を生かした定住を促進するエリアと位置付けている。特に、南那須地区はスポーツが盛んで、スポーツ施設を誘導するエリアとなっている。この合併時の合意内容が現在も引き継がれている。今年4月から運用を開始した第3次総合計画においても、議会の議決をいただいたうえで、内容を踏襲している。

委員長) 烏山市街地と南那須市街地は、それぞれJRの駅を有している。このことは那須烏山市にとって非常に大きな財産であり、この立地を生かしていかなければならない。それぞれの市街地にふさわしい都市機能、つまり公共施設を配置していく必要がある。

委員) 10月にJR烏山線100周年を記念したマルシェが烏山駅前で開催された。運営では、烏山線を利用しての来場を呼びかけていた。駅前でイベントを行うと、烏山線の利用向上につながる。駅前に市庁舎プラス市民ホールだったり、庁舎は別で駅前に単独で市民ホールといった誘導が考えられる。烏山駅前には、どのような公共施設が建つにしても、活用すべき。烏山駅東側の太陽光発電所になっている場所も生かして一体的に計画できれば理想的だと考える。烏山駅東側も活用していく視点を持つておく必要がある。

烏山地区のほとんどの公共施設が建替え等が必要な状況で、複合化するとしても、闇雲に複合化することはできないと考える。両地区にそれぞれ必要な施設と、市全体で1つあればいい施設をカテゴライズして、市全体に1つあればいいとなった施設について、どちらの地区に整備するのがいいのか、総合計画の将来都市構造との整合や現実性で検討していく。両地区に必要な施設についても、具体的な場所や優先順位について、市民の納得が得られるような検討が必要。

委員) 概算事業費について、いくつかパターン分けすることになるかと思うが、次回の委員会で提示されるのか。

事務局) 次回の委員会で提示できるかは未定だが、都市建設課とともに道路整備のパターンも考慮しながら、検討を進めている。

委員) 候補地ごとの概算事業費を比較することで、ある程度候補地のランク付けがなされてくる。そうなると、時間をかけてでも精度の高い積算を出していかないと対外的にも示せない。また、新たに若手有志の会で市民の声を聞いてまとめるという動きが出てきたこともあり、次回の委員会は1箇月後ろにずらして実施することとしてはどうか。1月25日は、単に延期するのではなく、委員のスキルアップ、意識の向上につなげるため、黒磯駅前の「みるる、くるる」や大田原の「トコトコ」など、近隣の施設の視察に行ってみるかどうか。

事務局) 真岡市でも、現在市役所前に図書館、子育て支援センター、地域交流センターを複合化した施設の建設が進められている。視察を通じてイメージを膨らませるのも有意義だと考える。次回委員会に向けて、事務局としては、鋭意作業を進めていく所存だが、資料作成にかなりの作業を要すると思われる。市有バスの予約や視察先との調整等も含め、作業の進捗を見ながら検討させていただきたい。

委員) JR烏山線の利用向上のためには、観光利用も検討する必要がある。山あげ会館を中心としたネットワークなど、残すべきものは残していくことが大切。まちづくりの方向性として、あれもこれもではなく、一点突破の方向性も必要ではないか。

委員) 山あげ会館について、山あげ祭期間中は多くの観光客が来るが、それ以外の



時期の集客は課題である。新しいものだけでなく、烏山の古い歴史も含めてまちの活性化を考えていきたい。

委員) 先日、市民から「那須烏山市はお金がないのに庁舎を建てられるのか」と言われた。市には庁舎を建てられるだけのお金があることを、庁舎整備ニュースレター等を通じて何回も周知して、市民にPRした方が良い。

委員) 南那須地区の配置図で、緑地運動公園を載せていないのはなぜか。

委員長) 基本的に公共施設等総合管理計画に記載のハコモノについて載せている。

事務局) 公共施設等総合管理計画は、公共施設の複合化・集約化を図り、そこに対して国の有利な財政支援措置を受けるために策定した計画である。緑地運動公園はハコモノではないが、老朽化し機能が不足しており、大規模改修が必要な時期を迎えている。南那須地区はスポーツを推進するゾーンとして位置付けており、緑地運動公園についても、ランドデザインに含める必要があると考えている。

委員) 都市建設課において都市計画マスタープランの見直しを行っているとのことだが、人口減少を見据え、人を育てていくまちづくりを念頭に置く必要がある。その中で、社会教育は最重要な取り組みである。身近なところで市民活動ができるハードの整備は1箇所ではないと思っている。境公民館、七合公民館はなくなっていくだろうという話も聞くが、それでいいのだろうか疑問に思っている。公民館、コミュニティセンターのような施設は各地区に確保していくべき。

事務局) 都市計画マスタープランは、市を4つのエリアに分け、それぞれのエリアをどのようにしていくのかを定めたもの。現行の計画は平成20年に策定されたものでだいぶ時間が経っているため、コンパクトシティの推進といった観点から見直しを進めている。都市建設課としては、各集落の拠点となる機能は残しつつ、少しずつ市街地へ誘導していきたいと考えている。都市計画マスタープランには、公共施設や道路橋梁も位置付けていくことになるため、本委員会での検討内容を活用させていただきたい。

委員) 公共施設について、市に1つあればいいもの、両地区に1つずつ必要なもの、各集落ごとに1つ必要なものといったように体系化していくと、ストーリー性が生まれてくるのではないか。

先ほど、視察という話が出たが、私も行ってはどうかと考えていた。先日、真岡市役所に行く機会があった。正面玄関から入ると、市民生活に必要な課がまとまっていて利用しやすくなっていた。防災拠点機能や展示コーナー等があり、参考になった。その庁舎の反対側に、複合交流拠点の建設が進められており、その延床面積が、本市で想定している庁舎規模の3階建ての面積と近かったこともあり、実際に目で見て、規模感の参考になった。実際に見て、説明を受けたりすることでイメージがわくと思うので、視察に行けると良いと考える。

### (3) その他

#### (烏山庁舎跡地の利活用について)

委員) 岐阜県中津川市に苗木城跡という国指定史跡がある。城は残っていないが、CGで復元しており、面白い取組だと思った。烏山庁舎の跡地利用を考えるに当たって、烏山城跡の麓にあることから、こうした取組を参考にしながら、資源を生かしていくと良いと考える。

委員長) 烏山城跡は市にとって歴史的にも重要な資源である。ランドデザインに絡めて考えていくことで、時間をさかぼのってイメージできるようなまちになっていくと考える。

### 5 その他

事務局) 今回の進め方について確認させていただく。本日、いろいろなご意見があった中で、複合化の考え方、カテゴライズなど、やはり整理に時間を要すると思われる。また、ご意見のあった視察についても、どういった施設がいいのかといったことも含め、両にらみで調整させていただき、適宜情報提供させていただきたい。

委員) 東北本線の黒磯駅～新白河駅間はSuicaが使えず、私が利用する黒田原駅はこの間にある。宇都宮方面からは黒磯駅で必ず乗換が必要になるが、ダイヤが改悪となり、かなりの待ち時間が発生し不便で、利用者が減少している。不便なことに声をあげる人も減ってきて、「ダイヤが悪くなる→利用者が減る→更にダイヤが悪くなる」といった負のスパイラルに陥っている。そのような状況を見ていて、JR烏山線の利用向上をどうしたらいいか考えたときに、廃線という話が出てからでは遅い。防災士の教えの中に「率先避難者たれ」という言葉がある。避難する際に自らが真っ先に避難することで、避難する姿を示しなさいという教えである。

JR烏山線で言えば、まさに市職員が率先利用者になるべきと考える。NHKのニュースで、公共交通チャレンジウィークの取組を見たが、例えば宇都宮への出張には率先してJR烏山線を利用するなど、この取組をもっと拡大していくべき。

事務局) JR烏山線の存続は市にとって大きな課題となっている。存続に向けて、ソフト対策は今も進めているが、ハード対策による集客も重要である。ソフト・ハード両面から市街地再生に向けた検討を行っている。これから議論していくランドデザインについても、JR烏山線の存続を1つの軸として検討していきたい。前回の委員会と今回の委員会で大きく異なることは、事務局主導ではなく、委員の皆様方の闊達な意見交換の中から生まれたものを採用していくことを重視している点である。時間がかかったとしても、丁寧に議論を重ね、意見を集約していくことが重要だと考えている。引き続きご協力願いたい。第8回委員会については、視察を行うのか、単に延期となるのかも含めて調整のう

え、改めて通知させていただきたい。

## 6 閉会

事務局が閉会を宣言した。